

授業概要

本演習では環境会計・経営に関連した卒業論文作成準備の指導を行います。春期は環境関連の基本書を輪読しその概要をパラグラフ・ライティングでまとめる練習をします。内容は主に、「環境社会検定試験」の教材を使用する予定です。秋期は卒業論文の作成準備を行います。資料の収集方法から先行研究の検索を行いその鳥瞰図を作成してもらいます。その中から、①分かっていること、②分らないこと、③分らないことをあなたはどのようにするのか、これらを卒業論文にまとめます。PC データ検索では、日経 Value Search や CiNii (学術情報ナビゲータ[サイニィ]) の扱いに慣れること。

授業計画

第 1 回	ガイダンス、演習の概要説明	第 16 回	卒業論文の作成準備ガイダンス
第 2 回	各論：持続可能な社会とは	第 17 回	資料収集 日経 VS/CiNii 検索方法
第 3 回	人口、食糧需給問題、資源と環境	第 18 回	先行研究 環境、会計、ESG 経営
第 4 回	貧困、経済格差、生活の質	第 19 回	先行研究 SDGs、共生、持続可能性
第 5 回	地球温暖化と脱炭素社会を目指す	第 20 回	先行研究 鳥瞰図作成 1
第 6 回	エネルギーと環境政策の経緯	第 21 回	先行研究 鳥瞰図作成 2
第 7 回	生物多様性の意味、自然共生社会	第 22 回	リサーチクエッションと中心命題 1
第 8 回	循環型社会、廃棄物、リサイクル制度	第 23 回	リサーチクエッションと中心命題 2
第 9 回	震災関連・放射性物質、使用済み核燃料	第 24 回	研究対象企業の選定 1
第 10 回	環境保全の取り組み、環境政策	第 25 回	研究対象企業の選定 2
第 11 回	環境教育、環境影響評価、	第 26 回	卒論の目次の作成 1
第 12 回	企業の社会的責任 CSR	第 27 回	卒論の目次の作成 2
第 13 回	環境マネジメント EMS	第 28 回	卒論のテーマ報告会①概要説明
第 14 回	パブリックセクターの取り組み	第 29 回	卒論のテーマ報告会②概要説明
第 15 回	課題レポート	第 30 回	卒論のテーマ報告会③概要説明
春期	定期試験	秋期	定期試験

到達目標

- 卒業論文作成の準備ができること。

履修上の注意

- 毎週、テキストに沿ったレジメを作成し、それによる発表とパラグラフ・ライティングの練習を行います。
- 正課授業科目、春期「環境会計論」は必ず受講して下さい。
- パソコンの Word, Excel, PowerPoint, Outlook メールには、習熟していること。
- 就職試験に関する指導を行います。例) ニュース検定試験、SPI テストなど実施します。

予習復習

- 毎週、レジメの作成は宿題となります。

評価方法

- 授業中の発言や報告内容 50%、課題レポート 50%で評価する。
- 授業態度不良者等は「不可」とする。

テキスト

- 教科書名：環境社会検定試験 eco 検定公式テキスト
- 著者名：東京商工会議所
- 出版社名：日本能率協会マネジメントセンター
- 出版年 (ISBN)：最新版
- 教科書名：2022 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 「時事力」基礎編(3・4 級対応)
- 著者名：日本ニュース時事能力検定協会 (監修)
- 出版社名：毎日新聞出版

授業概要

この演習では、会社の仕組みやあるべき姿そしてコーポレート・ガバナンスの考え方について学びます。卒業後に会社勤めを考えている学生には、是非これらの問題に興味を持って積極的に取り組むことを期待します。各回のゼミでは、ゼミ生全員がテキストの指定箇所を事前に読んできて、事前に割り振られた担当の学生が報告資料を作成したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきます。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。

授業計画

第 1 回	この演習で学ぶこと	第 16 回	日本型資本主義とサラリーマン
第 2 回	日本の会社の現況	第 17 回	終身雇用制
第 3 回	バブル崩壊と景気の低迷	第 18 回	年功賃金制度
第 4 回	リストラの構造的要因	第 19 回	日本的雇用システムの系譜
第 5 回	IT 革命と金融革命	第 20 回	商業資本主義と産業資本主義
第 6 回	法人とは何か	第 21 回	ポスト産業資本主義
第 7 回	株式会社の基本構造	第 22 回	デ・ファクト・スタンダード
第 8 回	法人の存在理由	第 23 回	コア・コンピタンス
第 9 回	株主の有限責任制	第 24 回	有形資産から知識資産へ
第 10 回	コーポレート・ガバナンスとは何か	第 25 回	株主主権論の敗北
第 11 回	コーポレート・ガバナンスの実際	第 26 回	個性的な企業文化を築くこと
第 12 回	日本の会社の特殊性と普遍性	第 27 回	日本的経営のパラドックス
第 13 回	法人名目説と法人実在説	第 28 回	起業家の条件
第 14 回	会社乗っ取りの仕組み	第 29 回	会社の新陳代謝と起業意欲
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ
		第 31 回	課題レポートの提出

到達目標

会社の仕組みやあるべき姿そしてコーポレート・ガバナンスの考え方を理解したうえで、報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施できることを目指します。

履修上の注意

予習、復習をきちんとすることと、毎回出席することが基本的な履修条件です。また、本演習では就職活動に向けての各種の指導も実施する予定です。

予習・復習

教科書の指定された箇所を事前に理解するとともに、各回のゼミ終了後に内容を復習することを求めます。

評価方法

ゼミでの発表や発言（50%）、課題レポート等（50%）に基づき、総合的に評価します。

テキスト

- ・教科書名：『会社はこれからどうなるのか』
- ・著者名：岩井克人
- ・出版社名：平凡社ライブラリー
- ・出版年：2009年（ISBN 978-4-582-76677-6）

授業概要

コロナ禍で私達人類は大変苦しめられ、悲しい思いや我慢を強いられてきましたが、その間にも世界中の人々が様々な研究や創造力を発揮し、未来につなげています。2030年、私達の生活はどのように変化していくのでしょうか。どのような新たなライフスタイルとなっているのでしょうか。どのような産業やビジネスが発展していくのでしょうか。本演習では、詳細な業界分析を通して、業界の知識や情報をベースに、未来の社会を描く柔軟な考え方や、社会の現状把握、諸課題の理解や問題解決能力を修得することを目的とします。特に健康や環境関連ビジネスの成長が著しいので主に取り上げます。また、ディスカッションやプレゼンテーション実践を通して、社会が最も求めているコミュニケーション能力を身につけるように演習を展開します。

授業計画

第1回	2030年の業界地図	第16回	新業界：脱炭素ビジネス② 水素ビジネス
第2回	新業界：健康① 介護・医療ロボット	第17回	新業界：脱炭素ビジネス③ グリーンエコミー
第3回	新業界：健康② 健康ビッグデータ	第18回	新業界：脱炭素ビジネス④ サークラーエコミー
第4回	新業界：健康③ スリープマネジメント	第19回	新業界：脱炭素ビジネス⑤ スーパーシティ
第5回	新業界：健康④ 予防・治療アプリ	第20回	宇宙ビジネス
第6回	新業界：健康⑤ 遺伝子医療・再生医療	第21回	AI ベンチャー
第7回	新業界：健康⑥ ブレインテクノロジー	第22回	5G
第8回	新業界：健康⑦ フードテック	第23回	DX(デジタルトランスフォーメーション)
第9回	新業界：健康⑧ 終活サービス	第24回	EC(電子商取引)サービス
第10回	新業界：健康⑨ IoT住宅	第25回	クラウドファンディング
第11回	新業界：健康⑩ eスポーツ	第26回	シェアリングエコミー
第12回	新業界：健康⑩ 創薬・医療機器ビジネス	第27回	VR(仮想現実)・AR(拡張現実)
第13回	新業界：健康⑪ オンライン診療・遠隔医療	第28回	ESG投資
第14回	新業界：健康⑫ ワークেশョン	第29回	ドローン(小型無人機)と日常生活
第15回	新業界：脱炭素ビジネス① カーボンニュートラル	第30回	Z世代中心のビジネスへ
		第31回	試験

到達目標

- ・業界の最新の知識を修得でき、分析できる。
- ・未来思考で物事を考えられ、課題に対する解決方法を検討することができる。
- ・最新の健康・環境ビジネス業界について理解を深める。
- ・コミュニケーション能力を高めることができる。

履修上の注意

就職試験に対応できるよう指導しますので、自分の将来のキャリアパスを描けるようにしましょう。また、業界研究を通して、卒業論文のテーマも絞り込めるようにしましょう。

予習復習

専門用語が多いので、事前学習及び各単元後の復習の習慣を身につけるようにしてください。

評価方法

試験(最終レポート含む)60%、小レポート及びプレゼンテーション40%

テキスト

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| ・教科書名：会社四季報『業界地図』2022年版 | ・教科書名：日本経済新聞社編『業界地図』2022年版 |
| ・出版社名：東洋経済新報社 | ・出版社名：日本経済新聞出版 |
| ・出版年(ISBN)：978-4492973301 | ・出版年(ISBN)：978-4532324223 |

授業概要

専門演習では、まず、企業の経済活動に関する情報について『有価証券報告書』を使用して、企業が開示する情報を具体的に理解することから始める。そして、ゼミ生が考える社会的課題をまとめたうえで、その課題解決に貢献する企業を探す、という流れで演習を進める。

基本的には、ゼミ生がレジュメを作成し、プレゼンを行う形式を予定している。履修者の人数にもよるが、例年、秋期にはグループワークによるレポート作成コンテスト（学外主催）への投稿を行う指導をしている。

また、就職活動の準備には、筆記試験（SPI）やグループワークがゼミ活動としては欠かせないと考えているため、適宜、それらにかかわる内容を指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス・上場企業について	第16回	夏季休業期間中の課題の報告
第2回	上場企業の選択と下調べ	第17回	上記報告を踏まえた課題の討論
第3回	有価証券報告書の概要	第18回	各自の社会的課題に関連する討論
第4回	主要な経営指標①（各種伸び率など）	第19回	チームの社会的課題に関連する討論
第5回	主要な経営指標②（利益率・キャッシュフローなど）	第20回	スクリーニング基準の検討
第6回	沿革	第21回	第1スクリーニング基準の検討
第7回	事業の内容	第22回	上記基準を適用した企業選定
第8回	企業集団など	第23回	第2スクリーニング基準の検討
第9回	経営の基本方針	第24回	上記基準を適用した企業選定
第10回	業績の概要	第25回	仮想資金の投資先の決定
第11回	対処すべき課題	第26回	仮想資金の投資金額の配分
第12回	事業リスク	第27回	レポートの完成・提出
第13回	秋期テキスト（前半）の輪読	第28回	プレゼンテーション準備や資料作成
第14回	秋期テキスト（後半）の輪読	第29回	プレゼンテーション
第15回	まとめと第16回に向けてのガイダンス、夏季課題のガイダンス	第30回	専門演習の振り返りと結び付けた春期休業中の就職活動に関する指導
第16回	授業で採り上げた企業の有価証券報告書の概要をまとめたレポート提出	第31回	プレゼンをまとめたレポート提出

上記項目は目安であり、進度や人数により適宜変更・調整する。

到達目標

- ・『有価証券報告書』における「企業の概況」「事業の状況」の記載内容を知る。
- ・自らがテーマを探し、そのテーマについて共同作業でレポートを完成させる。（共同作業なのでチームにおける自分の役割を理解し、積極的に討論に参加する。）

履修上の注意

- ・専門演習は卒業までの2年間にかかわるので、登録前に必ず面談し、担当者の意図を理解した上で選択すること。
- ・履修指導を含め、通常の演習時間以外の活動（例えば、指定するキャリアセンター主催の行事）など就職活動にかかわる内容を積極的に指示する。
- ・2年次生などと合同で学外授業をすることがある。

予習復習

- 予習・春期：各自の選択した会社の『有価証券報告書』の指定部分の報告レジュメの作成。
- ・秋期：テーマに関する報告資料の検索と討論で説明・回答するための内容の検討。
- 復習・春期：報告レジュメに対する討論内容を反映したレポートの作成。
- ・秋期：テーマに対する報告内容についての共著レポートの作成。

評価方法

演習時における積極的な参加姿勢とレジュメ、および提出された課題といった平常点を重視して評価する。

テキスト

春期はEDINETから出力する。秋期は学外主催のレポート提出企画に参加予定であり、送付される小冊子を配布予定である（なお、受講人数が少なければ別にテキストを1冊購入する（書籍未定））。

授業概要

論文（特に、租税法論文）の書き方を指導します。文献収集法、各章の書き方、引用の仕方、根拠の提示方法（証明方法）等について、独自テキストを配布し、具体例を用いて、具体的に指導します。判決文の読み方を指導します。さらに、実際論文を読んで、理解して、具体的な書き方を指導します。

授業計画

第 1 回	ガイダンス、論文作成の前提事項	第 16 回	論文の基礎①事前準備
第 2 回	判決文を読む①(例：大島訴訟)	第 17 回	論文の基礎②判決文、評釈等の入手
第 3 回	判決文を読む②(例：大島訴訟)	第 18 回	論文の基礎③事実・基準・効果①
第 4 回	判決文を読む③(例：大島訴訟)	第 19 回	論文の基礎④事実・基準・効果②
第 5 回	判決文を読む④(例：大島訴訟)	第 20 回	論文の基礎⑤事実・基準・効果③
第 6 回	判決文を読む⑤まとめ	第 21 回	論文の基礎⑥事実・基準・効果④まとめ
第 7 回	立法政策論文を読む①	第 22 回	論文の基礎⑦研究テーマ・アプローチ①
第 8 回	立法政策論文を読む②	第 23 回	論文の基礎⑧研究テーマ・アプローチ②
第 9 回	立法政策論文を読む③	第 24 回	論文の基礎⑨研究テーマ・アプローチ③
第 10 回	立法政策論文を読む④まとめ	第 25 回	論文の基礎⑩研究テーマ・アプローチ④
第 11 回	法解釈論文を読む①	第 26 回	論文の基礎⑪研究テーマ・アプローチ⑤
第 12 回	法解釈論文を読む②	第 27 回	論文の基礎⑫論文の引用と形式
第 13 回	法解釈論文を読む③	第 28 回	論文の基礎⑬まとめ
第 14 回	法解釈論文を読む④	第 29 回	論文の基礎⑭佐藤メソッド以外の論文
第 15 回	法解釈論文を読む⑤まとめ	第 30 回	まとめ
		第 31 回	期末レポートの提出

到達目標

論文の書き方について、法的な思考方法、各章の構成と内容、証明方法（根拠の提示方法）、引用等の技術等をマスターすることが目標となります。ベースになるのは、佐藤メソッド([事実・基準・効果])です。就職に向かって動き出す時期ですので、就職試験、面接等への対処についても指導します。

履修上の注意

授業への出席は、もちろん、宿題の提出期限の遵守は、とても重要です。なぜなら、社会人になったら、会社を欠勤したり、上司の指示に遅れて仕事をする事など、ないように、今から練習しておくのが目的です。

自分の頭で考えるという作業を意識して学習して下さい。授業で説明されたことを、理解し、訓練し、実行するという一連の行動により、思考力が鍛えられます。税に関心のある履修生は、ぜひ履修して下さい。就職のための準備(業界・企業研究、エントリーシート、履歴書、会社訪問等を含む)の指導を、時間を見て、行います。就職試験対策の具体策は、上記の「授業計画」の中には、書きませんでした。各回の繁忙に応じて、適宜時間を見つけて、実施します。

なお、租税法Ⅰ、租税法Ⅱをすでに履修していることが、この専門演習履修の前提です。しかし、もし履修していない者は、専門演習の履修と同時並行して、**租税法Ⅰ(春期)**、**租税法Ⅱ(秋期)**を、**必ず履修**して下さい。

予習・復習

予習は、教員独自配付資料について、その内容を理解すること、復習は、授業内容のほか、(作成担当ゼミ生から送信された)授業のポイントを、熟読して、授業内容の理解をさらに深めること、です。

授業時間が90分の場合、90分の授業の他に、自宅等での予習復習(その内容は、[理解・訓練・実行]することです)だけのために合計4時間程度を充てること、文科省により推奨されています。しっかりと予習・復習して下さい。

評価方法

レポート、発表等への配点が70%、その他チェックテスト(就職試験テストを含む)等が30%の配点です。

テキスト

なし。すべて、教員作成の独自テキストを配付します。

授業概要

本演習では、大企業や中小企業などの海外展開や問題解決手法のプロセスを通して、企業が抱える問題や課題を認識することにより、卒業論文の研究の方向性を決めると共に、卒業論文の作成に必要な基本的手法を学ぶことを目指します。具体的には、下記の通りです。

- ・春期は、受講生には2～3名のチームを組んでもらい、事例研究に対するグループディスカッションや企業の海外展開に関するレポート作成により、自分で考えて発言する機会を多く設けることで知識の定着に努めると共に、会社や社会を担って立つ人材を育成することを目的とします。
- ・秋期は、卒業論文の構成を理解し、研究テーマの設定、リサーチプロポーザルと調査計画の作成など、卒業論文の執筆に向けての前段作業を行い、現時点における研究のまとめを作成することを旨します。

授業計画

第1回	春期演習の概要	第16回	秋期演習の概要
第2回	プレゼンテーションの概要	第17回	卒業論文の構成
第3回	大企業の国際経営とは	第18回	卒業論文の構成
第4回	多国籍企業の海外への直接投資と歴史	第19回	研究テーマの設定
第5回	多国籍企業の組織構造と組織の進化	第20回	研究テーマの設定
第6回	海外子会社の経営戦略	第21回	リサーチプロポーザル作成
第7回	国際的なマーケティング	第22回	リサーチプロポーザル作成
第8回	海外の生産拠点と研究開発	第23回	調査計画の作成
第9回	国際的な人的資源管理	第24回	調査計画の作成
第10回	国際的な戦略的提携と経営戦略	第25回	研究の進行状況の報告
第11回	中小企業の海外展開 ①	第26回	研究の進行状況の報告
第12回	中小企業の海外展開 ②	第27回	研究の進行状況の報告
第13回	海外展開している企業分析のプレゼンと討議 ①	第28回	現時点における研究のまとめ
第14回	海外展開している企業分析のプレゼンと討議 ②	第29回	現時点における研究のまとめ
第15回	春期のまとめ	第30回	今後の研究作業に関して

到達目標

- ・大企業、中小企業などの海外展開による成功例、失敗例、課題などを理解し、将来のキャリアに役立てる。
- ・研究テーマを設定し、卒業論文の項目に沿って調査分析することにより、卒業論文作成の基礎を修得する。

履修上の注意

- ・ゼミ生の人数や進行度合いによっては、変更・調整することがある。
- ・ゼミではディスカッションインを中心としたインタラクティブ(双方向)な方式で進めるので、必ず毎回出席すること。
- ・2022年日本経済の動向など、就職活動に役立つ指導を行う。

予習・復習

- ・春期は各テーマに関連する新聞記事、雑誌記事などをピックアップして、演習内で発表すること。また、企業の海外展開におけるレポート作成を指示する。
- ・秋期は研究のテーマ、リサーチプロポーザル、調査計画、進捗状況は適宜発表してもらうので、各自自分で整理・復習してください。

評価方法

- ・成績は、出席状況、演習参加への姿勢・貢献度 40%、事例研究、企業の海外展開に関するレポート作成、卒業論文のテーマとリサーチプロポーザルの策定 60%により評価する。

テキスト

- ・テキストや参考文献に関しては、必要に応じて演習中に指示します。

授業概要

中国経済の歴史と現状についての基本知識を習得する演習である。報告テーマを数多く提供するので、その中から関心のあるテーマを選んで発表し、発表者に対して質疑応答を行う形式をとる。1980年代より高度成長を成し遂げ、経済大国になった中国だが、その経済発展は今後持続可能なのか、資源や環境問題、所得格差問題、少子高齢化問題などをどのように克服していくのか、これらを巡って掘り下げた議論を行う。

授業計画

第1回	オリエンテーション(演習内容、進め方、評価方法などの説明)	第16回	オリエンテーション(春期の振り返りと秋期の目標設定)
第2回	グローバル経済の中の中国経済①	第17回	中国の人口・労働力・雇用問題Ⅰ
第3回	グローバル経済の中の中国経済②	第18回	中国の人口・労働力・雇用問題Ⅱ
第4回	中国の改革開放政策の変遷①実験主義、漸進主義的手法	第19回	中国の「四農」(農業・農村・農民・農民工)問題
第5回	中国の改革開放政策の変遷②鄧小平の「先富論」	第20回	中国の戸籍制度Ⅰ：戸籍制度の成立過程
第6回	「社会主義市場経済」とは何かⅠ—「計画」から「市場」へ	第21回	中国の戸籍制度Ⅱ：戸籍制度改革と都市化
第7回	「社会主義市場経済」とは何かⅡ—株式制、証券取引所の導入	第22回	中国の戸籍制度Ⅲ：戸籍制度改革と「二重構造」の解消
第8回	「社会主義市場経済」とは何かⅢ—国有大企業の地位	第23回	環境問題Ⅰ：現状と対策
第9回	外国投資の役割Ⅰ—資本・技術・経営管理手法の導入	第24回	環境問題Ⅱ：経済大国としての責任
第10回	外国投資の役割Ⅱ—国際収支、雇用への貢献	第25回	エネルギー不足問題と新エネルギー開発の動き
第11回	地域開発と地域格差Ⅰ：沿海と内陸の格差	第26回	中国の「走出去」政策
第12回	地域開発と地域格差Ⅱ：都市と農村の格差	第27回	日中貿易関係
第13回	格差問題の現状と対策	第28回	日本の対中直接投資Ⅰ：中国事業の重要性
第14回	協調的な発展に向けて	第29回	日本の対中直接投資Ⅱ：中国事業のリスク
第15回	春期内容のまとめ	第30回	秋期内容のまとめ
		第31回	秋期定期試験

到達目標

- 1、要領よくレジュメを作成できるようになる
- 2、適切なコメントや問題提起できるようになる
- 3、中国経済に関する基礎知識を習得し、日本との異同点を概ね理解できるようになる

履修上の注意

- 1、報告内容に関連する補充資料の添付が望ましい。
- 2、報告内容に限らず、中国経済に関する幅広い議論を期待したい。
- 3、時間に余裕があるときに就職関連の指導も行う。

予習・復習

報告者でなくても予定の内容を通読し、予備知識をつけておくこと。

評価方法

授業参加の積極性、発表の準備状況および報告内容(50%)、期末試験(50%)を総合して評価する。議論に参加せず、居眠り、無気力・無関心の履修者はマイナス評価になるので、注意してください。

テキスト

特に使わない。必要に応じて参考書を指示し、資料を配布する。

授業概要

本演習では、近代経済学の手法を用いて経済を分析し、有効な政策を提言することができるようにすることを主目的とする。近代経済学の手法とは、統計的な方法を用いた計量経済学の手法のことである。例えば、経済活動水準が低いときには減税を実施すべきなのか、公共投資を実施すべきなのか。それを的確に判定するためには、現在の経済状況をモデル化する必要がある。

そのため、経済学の理論を習得するとともに、現実のデータを用いて経済分析をするための統計学の方法も駆使できるように指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 17 回	統計モデル解析の方法 1
第 2 回	EXCELの復習 1	第 18 回	統計モデル解析の方法 2
第 3 回	EXCELの復習 2	第 19 回	統計モデル解析の方法 3
第 4 回	EXCELの復習 3	第 20 回	統計モデル解析の方法 4
第 5 回	EXCELの復習 4	第 21 回	統計モデル解析の方法 5
第 6 回	EXCELの復習 5	第 22 回	統計パラメーターの考察 1
第 7 回	アドインソフトの使い方 1	第 23 回	統計パラメーターの考察 2
第 8 回	アドインソフトの使い方 2	第 24 回	統計パラメーターの考察 3
第 9 回	アドインソフトの使い方 3	第 25 回	統計パラメーターの考察 4
第 10 回	アドインソフトの使い方 4	第 26 回	統計パラメーターの考察 5
第 11 回	アドインソフトの使い方 5	第 27 回	モデル分析の応用 1
第 12 回	必要なデータの収集方法 1	第 28 回	モデル分析の応用 2
第 13 回	必要なデータの収集方法 2	第 29 回	モデル分析の応用 3
第 14 回	必要なデータの収集方法 3	第 30 回	モデル分析の応用 4
第 15 回	必要なデータの収集方法 4	第 31 回	まとめ
第 16 回	中間テスト	第 32 回	期末テスト

到達目標

経営や経済のデータを分析するために、的確な統計モデルを構築し、計算結果を解釈することができるようになることが、本講義の到達目標である。幸い、EXCELには多様な統計処理ソフトが組み込まれているので、それらを有効に活用して適切な統計処理ができるようになってほしい。

履修上の注意

パソコンの実習が中心となるので、パソコンの操作（表計算とワープロ）は身につけておいてほしい。ただし、それらは必要条件ではないので、演習で指導をする。しかしながら、そうした受講生は人一倍努力してもらいたい。

予習・復習

毎回到わたって常に新しいデータを提示するので、取得したデータ分析の方法を適用して、予習と復習にあててもらいたい。毎回の講義の始まりに、課題について解説をする。

評価方法

課題の提出状況などを見て判断する。

テキスト

今のところは特定のテキストを指定することは考えていないが、演習の進行状況に応じてこちらから指定することがある。

授業概要

(1) 経営財務「経営財務」を基本テーマとするゼミとします。「経営財務」はファイナンス、財務会計、管理会計の応用分野で、具体的には財務諸表を読み込んで資金計画を立て、銀行借入や社債発行、株式発行などでの資金調達や会社の財務計画を行うことです。経営のヒト・モノ・カネにおけるカネの分野です。

(2)しかし各自の学生が興味、関心を持ったテーマも尊重し、そのテーマでの研究を深めて4年次で卒業論文を執筆に繋げる路も可能とします。「経営財務」以外では、マクロ経済学、ミクロ経済学、国際経済学、開発経済学、金融論、各種経済政策、各国の経済史、経済学史、医療経済学、病院経営論、世界の医療制度、社会保障論、人口論、労働法、財務分析、経営分析、医学史、歴史の分野での卒業論文指導はできません。ゼミ生が研究テーマを見定め、論文のスタイルに纏めるように指導します。

授業計画

第 1 回	春期ガイダンス：ゼミの進め方の説明	第 16 回	秋期ガイダンス：卒論執筆への準備
第 2 回	準備、企画、発想、情報収集	第 17 回	情報整理、論旨構成、文章ルール
第 3 回	各自の関心を明確にし、資料を集める	第 18 回	論文構成を構築（研究目的、研究方法）
第 4 回	テーマを絞り込んでいく	第 19 回	研究の進捗状況の報告 1
第 5 回	資料・文献を収集し、発表報告する 1	第 20 回	研究の進捗状況の報告 2
第 6 回	資料・文献を収集し、発表報告する 2	第 21 回	研究の進捗状況の報告 3
第 7 回	資料・文献を収集し、発表報告する 3	第 22 回	研究の進捗状況の報告 4
第 8 回	資料・文献を収集し、発表報告する 4	第 23 回	研究の進捗状況の報告 5
第 9 回	資料・文献を収集し、発表報告する 5	第 24 回	研究の進捗状況の報告 6
第 10 回	資料・文献を収集し、発表報告する 6	第 25 回	研究の進捗状況の報告 7
第 11 回	資料・文献を収集し、発表報告する 7	第 26 回	研究の進捗状況の報告 8
第 12 回	資料・文献を収集し、発表報告する 8	第 27 回	研究の進捗状況の報告 9
第 13 回	資料・文献を収集し、発表報告する 9	第 28 回	研究の進捗状況の報告 10
第 14 回	資料・文献を収集し、発表報告する 10	第 29 回	4 年生の卒論報告会への参加（予定）
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

・大学時代の自分の研究テーマを検討し、研究対象、研究目的、研究方法を絞り込んで、卒業論文執筆の準備を行います。

履修上の注意

- ・演習は参加型の授業スタイルなので、毎回出席し、積極的に発表、発言、質疑応答、議論をしてください。
- ・キャリア形成、就職試験に関する指導もおこないます（SPI テスト、時事問題、インターンシップなど）
- ・教員情報は大学 HP、インターネットでキーワード「福永肇」で検索して得てください。

予習・復習

- ・予習や復習では毎回、専門用語がたくさん出てきます。その日から自分のボキャブラリーとして使ってください。
- ・予習は、私が配布した資料、論文や、自分で検索した文献を読み込み、ゼミで分担発表や討論をします（予習していなければ、発表や討論が出来ません）。
- ・復習は、ゼミでの発表や討論を通じて広がった知見や見識を整理・復習し、次の発表に反映、展開させます。

評価方法

- ・春期は①資料や文献などの報告発表、討論での積極性の評価（70%）と②ゼミへの貢献度（30%）
- ・秋期は①各自のテーマ（⇒4年次の卒業論文テーマ）の設定、準備、研究進行状況、報告内容への評価（70%）とゼミへの貢献度（30%）

テキスト

- ・現時点ではテキストに以下を考えていますが、このゼミを履修登録した受講生の関心や研究希望の分野、学習能力を理解した後に決めたいです。関連資料や文献コピーは配布します。
- ・『『専門家』以外の人のための 決算書&ファイナンスの教科書』、西山茂著、東洋経済出版社、2019 年刊

授業概要

「経営戦略とリーダーシップ」をテーマとする経営学領域の演習である。

経営戦略とは、企業が存続発展するための重要な指針である。本演習では、将来社会で活躍できるビジネスパーソンを育成すべく、戦略について書かれた文献を用いてその内容をじっくりと紐解きながら、「戦略とは?」、「戦略思考とは?」などを深く探究している。分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。

これらを通じて、読解力・コミュニケーション能力・文章力など社会に出て役立つ基礎能力やリーダーシップを身につけるよう指導する。

授業計画

第 1 回	春期概要：経営戦略の理論を学ぶ	第 16 回	秋期概要：リーダーシップを養成する
第 2 回	良い戦略とは？	第 17 回	戦略的思考①
第 3 回	悪い戦略とは？	第 18 回	戦略的思考②
第 4 回	グループワーク①	第 19 回	チームビルディング①
第 5 回	競争戦略	第 20 回	チームビルディング②
第 6 回	5つの競争要因	第 21 回	ファシリテーション①
第 7 回	競争優位	第 22 回	ファシリテーション②
第 8 回	グループワーク②	第 23 回	ファシリテーション③
第 9 回	価値創造	第 24 回	意思決定力①
第 10 回	トレードオフ	第 25 回	意思決定力②
第 11 回	適合性	第 26 回	意思決定力③
第 12 回	継続性	第 27 回	リーダーシップチャレンジ①
第 13 回	グループワーク③	第 28 回	リーダーシップチャレンジ②
第 14 回	プレゼンテーション	第 29 回	プレゼンテーション
第 15 回	総括	第 30 回	総括
		第 31 回	筆記試験等（含むレポート）

到達目標

- ・ 経営戦略論の専門書を理解できる能力を身につける
- ・ 理解した内容をデータ化し解説できる能力を身につける。

履修上の注意

- ・ 指定する経営戦略の専門書を購入する必要がある。
- ・ 新聞記事やネット記事を読み、その内容についてプレゼンテーションやディスカッションなどを行い、社会人基礎力を鍛える。これは就職活動にも役立つものである。

予習復習

- ・ 発表者は発表内容を文書化し全受講生は文献を精読して来ることが予習である。
- ・ 復習として授業の内容をデータ化する。

評価方法

- ・ プレゼンテーション能力の向上によって評価する。
- ・ この評価には読解力（30%）・文章力（40%）・発言力（30%）の向上などを含む。

テキスト

授業内で指定する。

授業概要

この演習は、データサイエンスの実践的事項を学ぶことを目標とします。データ収集・分析・構造理解と価値創造という一連の流れからなるデータサイエンスは、分析の実践的な手順や準備の仕方・代表的な分析手法を理解し、課題に合わせて適切な手順や手法を用いることが必要です。また、出力される数値や法則に基づく構造理解と価値創造ということを実に理解しなければ、役に立つ分析とはなりません。この演習では、これら実践的なことを学びます。4年次にはより進んだデータサイエンスや AI への応用、量子コンピューターを使ったデータサイエンスへと進みますが、そのときもこの専門演習での学習内容が基礎となります。

授業計画

第 1 回	春期ゼミオリエンテーション	第 16 回	秋期ゼミオリエンテーション
第 2 回	データサイエンスの体系	第 17 回	決定木分析 1 (考え方)
第 3 回	データ分析の基本	第 18 回	決定木分析 2 (分岐基準)
第 4 回	統計分析ソフト R のインストール	第 19 回	決定木分析 3 (分類木・回帰木)
第 5 回	統計分析ソフト R (仕組みと使い方)	第 20 回	グループ研究と卒業研究について
第 6 回	R によるデータ処理 1 (データ形式)	第 21 回	決定木分析 4 (分析例)
第 7 回	R によるデータ処理 2 (入出力)	第 22 回	決定木分析 5 (最適木)
第 8 回	R によるデータ処理 3 (各種計算)	第 23 回	ニューラルネットワーク 1 (基本概念)
第 9 回	R によるデータ処理 4 (グラフ)	第 24 回	ニューラルネットワーク 2 (モデル)
第 10 回	アソシエーション分析 1 (原理)	第 25 回	ニューラルネットワーク 3 (BP)
第 11 回	アソシエーション分析 2 (アルゴリズム)	第 26 回	ニューラルネットワーク 4 (事例)
第 12 回	アソシエーション分析 3 (データ形式)	第 27 回	ニューラルネットワーク 5 (発展)
第 13 回	データ分析のためのデータ管理	第 28 回	グループ研究の成果発表
第 14 回	アソシエーション分析 4 (分析例)	第 29 回	卒業研究の進め方
第 15 回	アソシエーション分析 5 (着眼点)	第 30 回	その他の分析手法について

到達目標

データサイエンスについての理解を深め、実践的な分析ができるようになる。

履修上の注意

この演習はデータサイエンス科目群を受講できない在籍者（令和3年度より前の入学者）向けです。統計学関係の授業を履修済みまたは履修中の方が好ましいです。プログラミングの学習経験は問いません。欠席や遅刻をすると、学習内容がだんだん分からなくなってきます。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください。メールアドレスはオリエンテーション時にお伝えします。また、グループ学習の形を取りますので、各自が自覚をもってグループの運営に取り組んでください。就職試験に関する指導を行います。例）エントリーシートの書き方、面接練習

予習・復習

予習：テキストや配布プリントの指定箇所を精読しておいてください。レポーターになった人は皆に説明できるように事前の学習を進めてください。
 復習：学習内容をよく復習し、体系的理解ができるようにしてください。

評価方法

ゼミへの貢献（学習への積極的関与）40%、グループ研究への貢献60%で評価します。合計 100 点のうち 50 点以上を取れば合格となります。ただし、出席回数が 10 回に満たない人は成績評価できませんので注意してください。

テキスト

オリエンテーション時に指定します。

授業概要

この授業は、ICT（情報通信技術）を学び、それを企業経営や経営管理に生かしていく上で、最近、注目されているいくつかの技術の事例を含めて、学習し習得することを目標としている。近年、注目されている技術としては、AI(人工知能)とブロックチェーン技術がある。この2つを中心にその理解と活用方法を学び、事例を紹介しながら、社会における使用状況を知る。また、AI(人工知能)とブロックチェーン技術により、社会や個人の生活がどのような変化が生じ、未来の展望を考えたい。

授業計画

第 1 回	AI(人工知能)の理解ー1	第 16 回	ブロックチェーン技術とは
第 2 回	AI(人工知能)の理解ー2	第 17 回	暗号資産との関係
第 3 回	AI(人工知能)の理解ー3	第 18 回	暗号資産の種類
第 4 回	AI をクラウド環境で使う	第 19 回	ブロックチェーン技術の可能性
第 5 回	クラウドコンピューティングの理解	第 20 回	ブロックチェーン技術の課題
第 6 回	クラウドコンピューティング演習 1	第 21 回	ブロックチェーンの活用 1
第 7 回	クラウドコンピューティング演習 2	第 22 回	ブロックチェーンの活用 2
第 8 回	クラウドコンピューティング演習 3	第 23 回	ブロックチェーンの活用 3
第 9 回	データサイエンス入門 1	第 24 回	社会におけるブロックチェーン技術 1
第 10 回	データサイエンス入門 2	第 25 回	社会におけるブロックチェーン技術 2
第 11 回	AI(人工知能)の演習 1	第 26 回	社会におけるブロックチェーン技術 3
第 12 回	AI(人工知能)の演習 2	第 27 回	ブロックチェーンの活用演習 1
第 13 回	AI(人工知能)の演習 3	第 28 回	ブロックチェーンの活用演習 2
第 14 回	発表	第 29 回	発表
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

到達目標

この授業は、ICT（情報通信技術）を学び、それを企業経営や経営管理に生かしていく上で、最近、注目されているAI(人工知能)とブロックチェーンの技術の事例を含めて、学習し習得することを目標としている。

履修上の注意

前半は、座学を中心に AI の知識を深める勉強をします。後半は、演習を取り入れて学習しますので、ノート PC またはタブレットを使用することになります。また、就職試験に関する指導を行います。例えば、ニュース検定試験、SPI テストなどを実施します。

予習・復習

各講義の内容について事前事後に自分でインターネットや本を基に学習することが望ましい。

評価方法

演習時間での参加や積極的な発言とレポート提出及び演習の成果発表などで評価する

テキスト

- 教科書名： 別途 連絡する
- 著 者 名：
- 出版社名：
- 出 版 年：

授業概要

この演習では、観光産業について広く学び、観光ビジネスの特性や現場で行われていること、今後の動きを見通しながら観光全般についての理解を深めていきます。

現在社会における観光の重要性を理解したうえで、卒業論文のテーマを想定したり、観光業・観光関連業務に従事することも視野に、興味を広げ、自分なりの学び姿勢を身に着けます。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	観光の意義、人や企業や地域への効果	第 17 回	観光政策と観光行政、その1
第 3 回	観光に関するワード	第 18 回	観光政策と観光行政、その2
第 4 回	観光事業	第 19 回	観光マーケティング、プロモーション
第 5 回	観光資源と観光対象	第 20 回	旅の歴史
第 6 回	観光ビジネス（宿泊、テーマパーク、鉄道、不動産デベロッパー、MICE）	第 21 回	マストツーリズムからサステイナブル・ツーリズム
第 7 回	旅行業（商品、地域との関わり）	第 22 回	インバウンドと異文化理解
第 8 回	旅行業（消費者保護、旅行業離れ）	第 23 回	個別テーマ・リゾート
第 9 回	宿泊産業（ホテル）	第 24 回	個別テーマ・自然と観光地化
第 10 回	宿泊産業（旅館・その他）	第 25 回	個別テーマ・聖地、ヘリテージ
第 11 回	交通手段・観光を演出する	第 26 回	個別テーマ・SDG's、エシックス
第 12 回	観光交通・環境・バリアフリー	第 27 回	個別テーマ・オーバーツーリズム
第 13 回	テーマパーク・スキー場・展示施設	第 28 回	個別テーマ・デジタルメディア
第 14 回	観光情報、ツール、媒体、IT	第 29 回	個別テーマ・SNS
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ
		第 31 回	

到達目標

観光に関する分野でテーマを設定し、資料や情報を収集し、論文を作成するための基本作業を体得する。幅広い分野の中から自分が深く知りたい研究テーマを見つけられるようにする。

履修上の注意

演習を通して、視野を広く持てるよう全体の理解を深めつつ、個別のテーマに興味を持って、掘り下げる方法について試行錯誤をしてください。

予習・復習

演習後に自分で内容の確認、整理、復習を行ってください。興味がある分野については自ら調べて、まとめて考察すること。

秋期途中から、研究テーマの設定、レジュメ・レポート作成などを行う予定です。

評価方法

チェックテストやレポートの配点が70%、授業での発言、姿勢などで30%の配点。

テキスト

使用しませんが、テーマや必要に応じて演習中に案内します。